

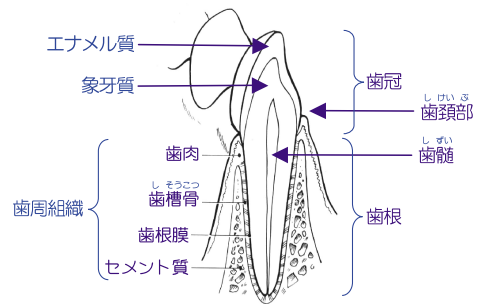
## 第2章

# 子どもの歯と口の特徴

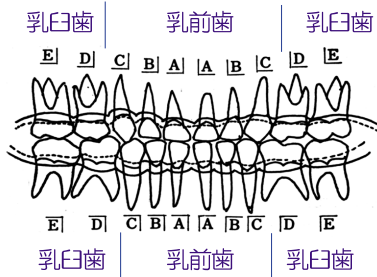
### 1. 歯と各部分の名前

乳歯（子どもの歯）は全部で20本、永久歯（大人の歯）は、親知らず（智歯）を除くと28本あります。歯の各部分の名称は、下図のとおりです。

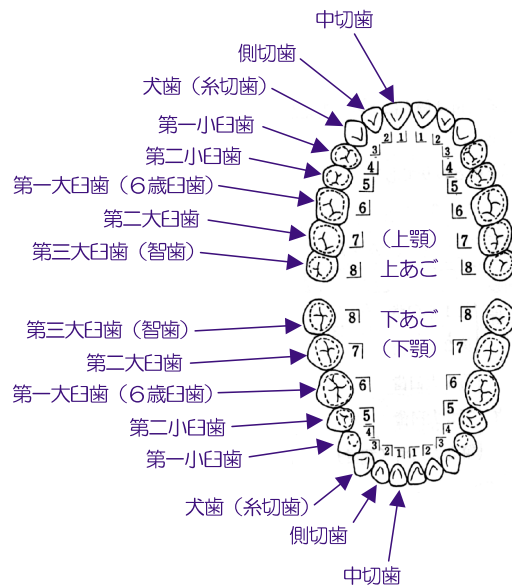
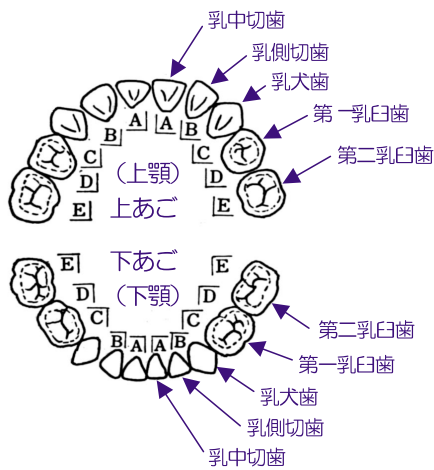
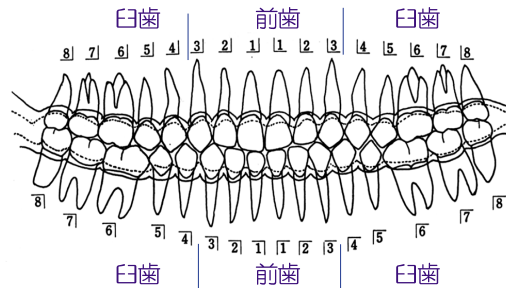
2-1 歯の部分の名前



2-2 乳歯の名前



2-3 永久歯の名前



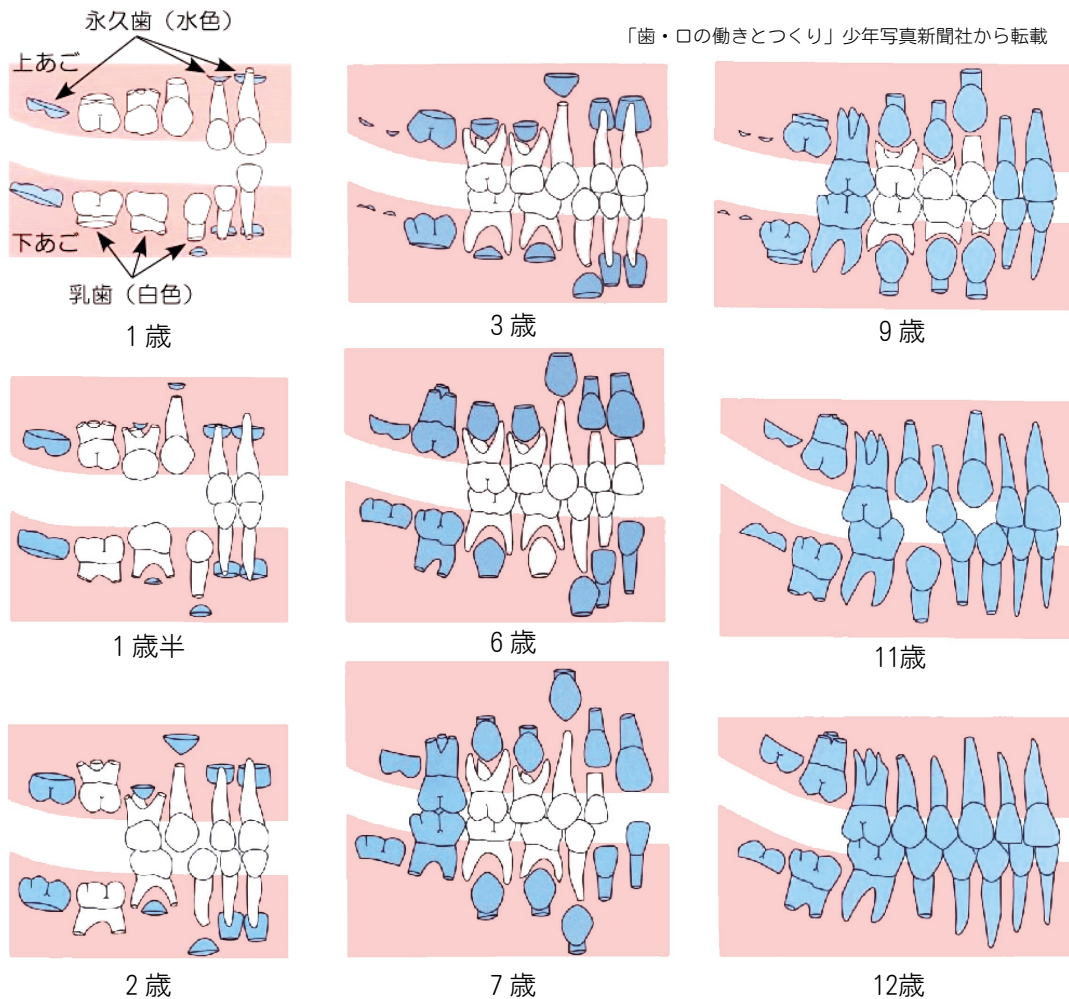
## 2. 乳歯の歯並びから永久歯の歯並びへの成長

乳歯が生えてくるのはおよそ生後6か月ころからですが、妊娠ほぼ4か月目ごろから乳歯のカルシウム分の沈着（石灰化）が起こり始め、大人の歯である永久歯の石灰化は出生時ころから始まります。2歳6か月ころにはすべての乳歯が顔を出し、小学校入学の前後に、最初の永久歯である第一大臼歯（6歳臼歯）が一番奥の乳臼歯の後ろに生えるか、下顎前歯が生えかわり、順次乳歯から永久歯へと生えかわります。そして、小学校在学中には、ほとんどの乳歯が永久歯と交換します。

子どもの口の中は、乳歯のみのかみ合わせから、永久歯のみのかみ合わせへと順次変化していきます。同時に顎の骨が成長していき、安定したかみ合わせを形成し、複雑な咀嚼そしゃく

2-4 口の中の年齢による変化の模式図

「歯・口の動きとつくり」少年写真新聞社から転載



## I 子どもの歯と口の基礎知識

運動がスムーズに行われるようになります。永久歯の交換の時期と顎の骨の発育のタイミングがうまくあわないと、永久歯に歯の並びの乱れが生じてしまいます。

### 3. 子どもに見られる主な歯と口の疾病

歯や口の成長・発育の過程において、様々な原因によって特殊形態や病気が起こってきます。疑問を感じたら、かかりつけ歯科医に相談しましょう。ここでは、成長につれて気がつく代表的な特殊形態と病気について紹介します。

#### 1) 口の特殊形態

##### (1) リガ・フェーデ病 (2-5)

生まれつき下顎前歯が生えている場合や早期に生えてきた場合は、舌に歯が当たる場所に潰瘍を形成し、発熱や授乳障害を引き起こします。歯の先端を丸くするか、抜歯します。

##### (2) 上皮真珠 (2-6)

乳歯が生える前の歯ぐきに米粒大の乳白色の半球状の腫瘍が出てくる場合がありますが、自然消滅します。

##### (3) 小帯の発達 [上唇小帯 (2-7), 舌小帯 (2-8)]

上唇小帯が歯と歯の間に伸びていたり太く短い場合は、歯と歯の間に隙間ができることもありますので、永久歯が出てくるまで経過観察し、程度に応じて小帯を切除します。また、舌小帯の短い場合は、発音障害の程度に応じて切除します。

#### 2) 歯の特殊形態

##### (1) 乳歯の癒合 (癒着) 歯 (2-9)

複数の歯がくっついたもので、乳歯では下

2-5 リガ・フェーデ病



2-6 上皮真珠



2-7 上唇小帯の肥厚



2-8 舌小帯が短い場合は、舌を出すとハート形になる



顎前歯に多くみられます。生えかわりの際には、歯根の吸収度合いに気をつけます。

(2) 永久歯の先天性欠如

永久歯が形成されていなく、生えてこない場合で、上下顎第二小臼歯、上顎側切歯に多くみられ、その部位は乳歯が大人になっても生えかわりません。

(3) 過剰歯 (2-10)

過剰歯が上顎の真ん中の歯ぐきに埋まっていると、切歯の間に隙間ができます。また口の中に生えてきた場合は、歯ぐきに並びきれずに歯並びが悪くなります。

(4) 形成不全 (2-11)

歯の石灰化期に高熱をだしたり、大きな病気を患うと、その時期の歯の石灰化が影響を受けて、帯状に歯の形成不全がみられる場合があります。ターナーの歯 (2-16) も形成不全の一種です。

(5) 内在性着色 (2-12)

歯の石灰化期に歯に沈着物があると、帯状の着色帯がみられる場合があります。

(6) 萌出<sup>ほうしゅつ</sup>の時期や場所の乱れ (2-13)

歯の生える時期が早くても遅くても、歯並びが乱れます。また、乳歯の脇から生え代わるはずの永久歯が生えてきた場合には、乳歯と永久歯が二重に並ぶので、その場合にはかかりつけ歯科医に相談しましょう。

2-9 乳歯の癒合歯



2-10 過剰歯



2-11 形成不全  
(上半分は鏡の像)



2-12 内在性着色



2-13 萌出の場所の違い



# I 子どもの歯と口の基礎知識

## 3) 歯と口の病気や外傷

### (1) むし歯 (う蝕)

乳歯は永久歯に比べるとむし歯になりやすく、また、幼児は歯の痛みを言葉で表現せずに、痛くない側だけでかんだりしてむし歯を知らせないことから、やっと保護者が気がつく頃には、大きなむし歯に進行しています。乳幼児は、自ら歯と口の健康をまもることはできないので、子どもに関わる方は「乳歯の重要性と特殊性」をよく理解し、子どものむし歯予防に取り組むことが大切です。

#### 乳歯のむし歯の特徴

1. 同時にできて進行が急速
2. 自覚症状が明確でない
3. 年齢により好発部位が異なる
4. 養育環境の影響を受けやすい

2-14 広範囲にわたる重度のむし歯の例



歯ぐきには膿の袋ができています。

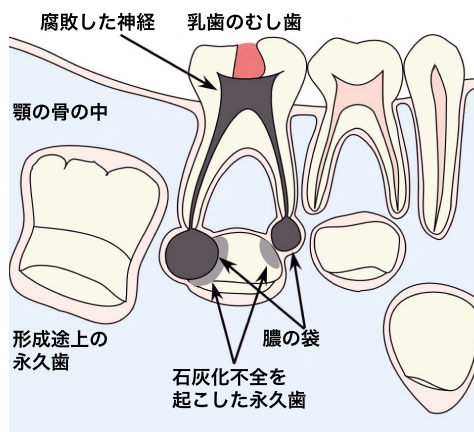
2-15 ほ乳ビンう蝕



ほ乳ビンに甘い飲み物やスポーツ飲料を入れて飲ませて、むし歯予防を怠ると、このような広範囲のむし歯が起きる。白い所は応急処置した部分。

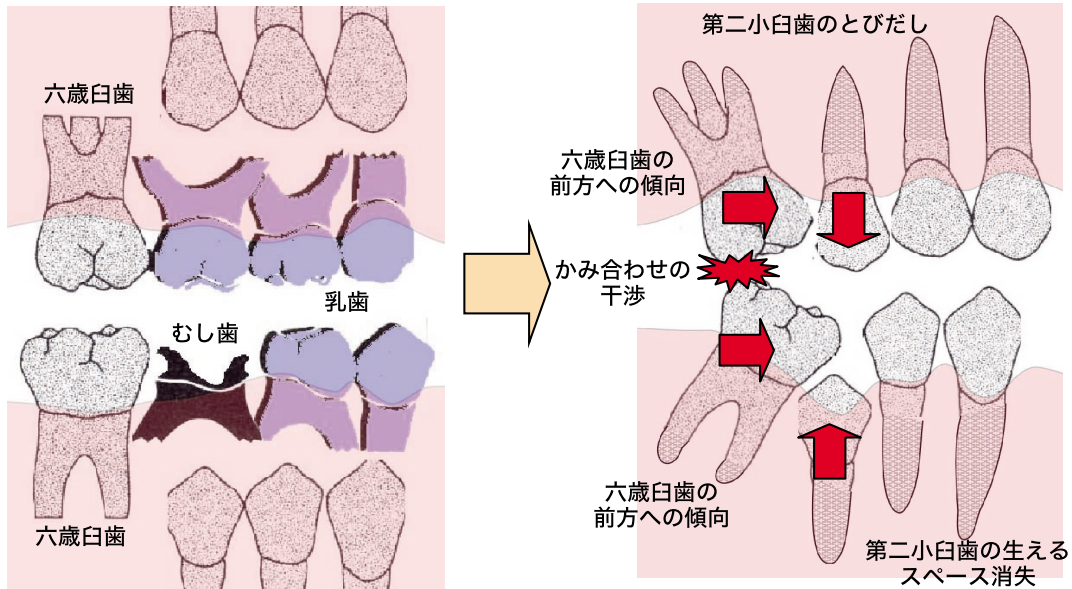
乳歯のむし歯を放置した場合、乳歯の根の先端部分にある形成途上の永久歯が影響を受けて、エナメル質の形成不全を起こす場合があります、これを「ターナーの歯」と呼んでいます。

2-16 ターナーの歯とその成因



さらに、乳歯の奥歯のむし歯を放置した場合、かみ合わせのバランスが崩れて、永久歯が生えてくる場所が無くなり、かみ合わせが乱れてしまいます。子どもの健全な身体を育成するためにも、むし歯の治療はきちんと行うことが大切です。

2-17 むし歯を放置した時の永久歯のかみ合わせへの影響



(2) 歯肉炎 (2-18)

歯肉炎は、歯と歯ぐきの間の歯垢が原因で生じる歯ぐきの炎症で、赤く腫れて出血しやすくなった状態を言います。5～9歳児の25%に、10～14歳児の50%に、なんらかの歯ぐきの炎症があります。思春期前後では歯垢が少しついているだけでも歯肉の炎症がひどくなる場合があります。歯をきれいにするとよくなる病気ですが、間違った歯みがき方法で悪くなることもあります。歯垢がついている場合は、かかりつけ歯科医でとってもらいます。

2-18 上顎歯肉の歯肉炎



## I 子どもの歯と口の基礎知識

### (3) 外傷

乳歯では1～2歳、永久歯では7～8歳に多く、遊戯中やスポーツ中の事故が多く、歯がぐらぐらしたり破折したりします。特にぶつけた歯の位置が大きくずれない場合でも、歯髄が死んで歯が変色したり（2-19）、歯の根の周りに炎症が起きる場合があります。

受傷時に歯が脱落した場合（2-20）には、歯を乾かさないように牛乳か生理食塩水に入れ、できるだけ早く歯科医院を受診すると、歯の再植（歯を元通りにくっつけること）の成功率が上がります。

### (4) 口内炎

広い範囲の口内炎は、感染症やビタミン不足などの全身状態を確認する必要があります。感染症としては、ヘルペス性口内炎（2-21、2-22）、ヘルパンギーナ、麻疹、水痘、手足口病、しょうこう熱などのウイルス性や細菌性の感染症の皮膚症状の一部として、それぞれの疾患に特徴のある口内炎が口の粘膜や舌に起こります。口内炎がひどく、すぐ治らない場合は、かかりつけ歯科医に相談しましょう。

2-19 受傷歯の変色



2-20 上顎前歯の完全脱臼



2-21 舌のヘルペス性口内炎



2-22 頬粘膜のヘルペス性口内炎

